



こんにちは 向陽台保育園です



向陽台保育園 稲城市向陽台5-8 2026・1月号

向陽台保育園HP

電話 042(378)7790

<https://www.kouyoudaihoikuen.com>

2026年の年が明けました。新しい年の始まりにはいつも、今年も皆が健康に過ごせますように、そして子どもたちを取り巻く世界が平和であるようにと願わずにはられません。



日本は戦後80年を迎え、平和を長い間享受してきたと言われていいます。しかし、世界に目を向けると、国同士の戦争や国内での争いが絶えない現実があります。その中では、罪のない多くの子どもたちが巻き込まれ、傷つき、命を落としていると聞きます。どうしたら戦争が無くなるのか、世界中の人が考えていますが、答えはまだ見つかっていません。

日々の保育の中でのことです。保育士が個々の子どもの対応に四苦八苦しっていると、周りの子どもたちがスッとそばに来て、「先生、〇〇ちゃんには、絵を描いて説明してあげるといいよ」「〇〇くんはこういうあそび方が好きなんだよ」…等々、アドバイスをくれることが少なくありません。子どもたちは子どもたちなりに相手をよく見ていて、関わり方を会得しています。感心するのは、その見方が、誰も排除することなく関わろうとする視線だということです。



多様化する社会のなかで様々な人と関わる力の土台を育てることが私たち保育園の『願い』ではありますが、子どもたちの姿から大人が学ぶことはたくさんあると感じます。子どもたちのように互いを排除することなく認め合っていくことができれば、世界で起こっている無用な争いごとも、無くすることができるのではないかと、ふと考えさせられた保育のなかのひとつコマでした。



向陽台保育園 1月の子育て広場のご案内

1月28日(水)10:00~11:00 離乳食のすすめ方 栄養士による相談会

実際に保育園で提供している離乳食を試食しながら、当園の管理栄養士が作り方や形状のアドバイス、ご相談にお答えいたします。

ホームページから(上記QRコード)もしくは お電話でもご予約可能です。



冬の恒例行事 かぜっこまつりのご案内

1月17日(土)9:50~11:30 開催場所:向陽台保育園園舎内・園庭

向陽台保育園では、毎年1月にかぜっこまつりというおまつりを開催しています。

テーマは昔あそび。園児たちはこま回しの大会で腕を競います。

他にも、

- 100円で楽しめるゲームのコーナー
- ペーパーサート・紙芝居のコーナー
- 紙コップで作るけん玉のコーナー
- 画用紙で作る絵馬のコーナー
- 向陽台保育園名物 給食室特製揚げパン販売
- 平尾のおにぎりやさん「天地の恵み 弥平四郎」のおにぎり販売
- 青少年育成会さんのポップコーン販売



そして、まつりのラストを飾るのは、大丸囃子さんのお囃子です。獅子舞やおかめ、ひよっこ、きつねなどが、にぎやかに新年を祝ってくださいます。

ぜひ遊びに来てください!(園舎内に入る際は、靴袋をご持参ください。)

劇の会の取り組みから…



向陽台保育園では、毎年12月の半ばに、「劇の会」という行事があります。「劇の会」は、幼児クラス(異年齢3クラス)がそれぞれ自分たちで劇に取り組み、それを発表し合う会です。

なぜ、この時期に「劇」に取り組んでいるのか。それは、4月に進級してからこれまで、日常生活での交流や様々な行事の体験などを経て、クラスの子どもの繋がりが深まってきているこの時期だからできる取り組みだからです。また、子どもたちが様々なお話や物語に触れることを積み重ねてきて、お話を理解する力を付けてきていることや、日常のあそびの中でごっこ遊びをしながら、役になり切る楽しさを知ってきていることも併せて、12月あたりが劇の取り組みをするのにいい時期であるというように感じています。



裏面へ続く →→→



11月に入った頃から、子どもたちは担任の先生といろいろな本を読みながら何の劇をやるか、相談を始めました。そして決まったのは、うみのおうちクラスは「11ぴきのねこシリーズ」から2つのお話をオリジナルで合体させた【11ぴきのねことあほうどりとふくろのなか】、もりのおうちクラスは【おたまじゃくしの101ちゃん】、そらのおうちクラスは【アリとキリギリス】でした。

幼児は異年齢クラスですので、年少・年中・年長が1つのクラスにきょうだいのように過ごしています。いつでも活動を引っ張っていってくれるのは、年長さん。劇も、年長さんが中心になって「こんな劇にしたい！」と意見を出し合い、台本や衣装を考えてくれました。



年少さんは大きくなって来たとはいえ、まだまだ劇もごっこ遊びのように元気いっぱい。「舞台上がることが楽しい!」「わーい!」と、まだまだ見られる自分への意識は薄い様子です。一方、年中さんは、見られる立場の自分を理解し始めてきているので、「恥ずかしい…」「間違えたらどうしよう」という感情と、「それでもより良い自分でありたい!」という気持ちとの葛藤が起こり、気持ちが揺れる様子も見られました。



そんな年少・年中の子どもたちの気持ちや動きをうまくフォローしてくれるのが年長さんでした。「一緒にやろう」と手をつないで役の動きを一緒にやってあげたり、せりふを一緒に言ってあげたり、年長さんならではの配慮を随所に見せてくれました。

また、少し長めのセリフに挑戦するとき、「おうちで練習してきたから」と頼んで台本を借りる責任感あふれる姿もありました。年少・年中を含めた劇は理解度の差があるので、まとめあげるのには難しい面がありますが、年長さんはそういう小さい子を含めた集団でのより良い劇を、出来栄にこだわって作り上げようとしていました。

年長さんのフォローもあって、年中さんも少しずつ自信を持って劇に参加できるようになり、年少さんも年長さんや年中さんが劇を楽しむ姿を見て、「楽しそうだから一緒にやりたい」と参加するようになっていきました。

そして本番。どの年齢の子も、仲間と一緒に楽しい!仲間と一緒にだったらできる!自分もこの仲間の一員だ!という表情で劇の会に参加していたように感じました。また一つ、クラスの輪が強くなったようです。



おもちつき、楽しみました!

日本のお正月の準備と言えば、年末になると「おもちつき」を思い出される方が多いかと思います。一昔前までは、各家庭でおもちをついたりしていたころもありましたが、近年はおもちつきをする家庭をめったに見なくなりました。

向陽台保育園では、子どもたちに季節を知らせ、日本の年中行事を知ってほしいという願いを持って、年間で様々な行事をおこない、保育に取り入れてきました。おもちつきも、その一つです。子どもたちに、おもちができていく過程を見せつつ、おもちつきの体験をしてもらい、日本の年末の雰囲気を知ってもらおうと実施しています。

幼児クラスを中心に、『おもちは何でできているか』や、『なぜお正月におもちを食べるのか』など、環境認識の一環として子どもたちに知ってもらってから、おもちつきの始まりです。

保護者の方々にも搗き手のお手伝いを募っており、今年度は5人の保護者の方が参加してくださいました。園庭で火をおこし、もち米を蒸していく過程を子どもたちの目の前で見せると、子どもたちは興味津々。「けむりがでてきた」「なんかおいしそうなおいがする」など、口々に言いながら見学していました。



そしてもち米が蒸し上がったところで、いよいよ搗き手の保護者の方々の出番です。「〇〇のおうち(クラス)の〇〇ちゃんのお父さんです!」と紹介されて、おもちを搗き始めます。杵を一振りするごとに「よいしょー!!」と子どもたちの元気な掛け声が響き、その掛け声にお父さんたちの杵を振る力強さが増します。お父さんたちを見守る子どもたちも、杵を振り下ろすダイナミックな動作に合わせて飛び跳ねる姿があり、一緒に搗いている気持ちになっていたようでした。

ある程度もち米がつぶれてきたら、子どもたちも順番で搗き手になります。杵の重さと振り上げた時の不安定さでよろめくこともありましたが、お父さんたちが見本をみせてくれていたこともあり、多くの子は次第にコツをつかんでいました。全部で合計3臼搗いて、2025年のおもちつきは無事終了しました。搗いたおちは、鏡餅や餅花にして、園内に飾ります。

子どもたちは終わった後も口々に「おもちつきたのしかったね」「おとうさんたち力つよかったね」とお話ししていて、楽しんだ様子が伝わってきました。お手伝いの保護者の方々も子どもたちとの交流をとても楽しんで下さり、「また来年も参加したいです」と仰ってくれていました。2026年も一年元気で過ごせますように!!

